

## 日本分析化学会九州支部2013年度第1回常任幹事会議事録

日時:2013年6月29日(土) 13:30-16:00

会場:九州大学筑紫地区先導物質化学研究所中央棟1階108会議室

参加者:原田 明(九大院総理工・支部長)、甲斐 雅亮(長崎大学院医歯薬・本部理事/監査)、松井 利郎(九大院農・次期支部長)、吉留 俊史(鹿児島大院理工・副支部長)、田嶋 晴彦(化学物質評価研究機構久留米事業所・副支部長)、新垣 雄光(琉球大理)、川上健次((株)ジェイ・サイエンス西日本)、河津 博文(近畿大産業理工)、下田 満哉(九大院農)、高椋 利幸(佐賀大理工)、竹中 繁織(九工大院工)、新留 康郎(九大院工)、西田 正志(崇城大学工)、浜瀬 健司(九大院薬)、山口 敏男(福岡大理)、和田 光弘(長崎大院医歯薬)、中野 幸二(九大院工・Anal. Sci. 編集委)、財津 慎一(九大院工・Asianalysis実行委員)、石岡 寿雄(九大院総理工・庶務幹事)、磯田 美紀(九大院総理工・会計幹事) (敬称略)

### 1 報告

#### (1) 本部・支部連絡会議報告

原田支部長より本部・支部連絡会議(6月21日)に関する報告が行われた。公益社団法人として帳簿の一元化と年に数回のチェック(3ヶ月に一度程度)が行われるとのこと。領収書類の保管等に関して、関西支部の例を挙げ、様式の詳細は資料を参照する旨指導があった。2015年の年会については原田支部長まで未だ連絡がないと報告があったが、甲斐理事の4月に委任状が出ているはず、との話と整合性がとれない状況であった。今後、年会の委嘱に関しては支部長が確認し、これまでの年会実行委員長経験者に話を伺いながら、実行委員長、場所、日程等の案について常任幹事にメールで相談することとなった。

#### (2) 理事会報告

甲斐理事より過去3回の理事会(3月29日・本部、4月19日・本部、6月21日・本部)に関する報告があった。年会の依頼等について理事会で委嘱状の書面が出ている旨、具体的なページを挙げ、指摘があった。この件に関しては原田支部長が確認する旨再度合意された。また年会については、2014年広島年会の運営の資料を示し、今後九州で同じような作業があると予想されるので準備をすすめるべきとの提案であった。また今後年会の運営法等について、今後より本部主導で年会を運営したいとの意思を新会長(寺前会長)が持っているとのことであった。名誉会員および永年会員の推薦基準の厳格化や、学会賞、先端分析技術賞、奨励賞等の受賞者(九州支部より山口敏男氏、戸田敬氏、大平慎一氏)、標準物質のディスカウント販売(廃棄にかかる費用の削減のため)予定など、報告があった。

### (3) 九州分析化学若手の会

第26回若手の会春の講演会(5月25日(土)・九州大学箱崎キャンパス)の世話人の岡上吉広幹事より提出された開催報告および会計報告に基づき、参加者108名の盛況であった旨、出席した原田支部長が報告した。ついで、第31回九州分析化学夏季セミナー(7月26日(金)、27日(土)・長崎ホテル清風、世話人:岸川直哉幹事(長崎大院医歯薬))についてアナウンスがあった。

### (4) 分析化学講習会

下田満哉実行委員長より第54回分析化学講習会(8月7日(水)―9日(金)・九州大学伊都キャンパス、福岡市産学連携交流センター)の案内があった。今年度より基礎と応用コースの種別がなくなり、一本化されたこと、また、浜瀬常任幹事より、受講者のうち液体クロマトグラフィーを受講した者は最終日実習終了後に分析士の試験を受験可能である旨アナウンスがあった。

### (5) 各誌編集委員会

Anal. Sci. 誌について中野幹事(編集委員)より現状の報告がなされた。剽窃に関して、物質名を変えて全く同じデータ、文章を用いて他誌の内容をAnal.Sci. 誌に掲載した例について注意喚起がなされた。またSpringerに発行作業を依頼した場合の費用とImpact Factorへの影響について報告があった。また電子化に関する質問は、現在科研費による冊子媒体との縛りがあることの説明があった。

ぶんせき誌について松井利郎次期支部長(編集委員)が報告を行い、テクノロジーが動いていない現状や、電子化に関して現在相半ばする意見があることが説明された。

分析化学誌について神崎幹事(編集委員)が欠席のため代わりに原田支部長より報告があった。年間特集のテーマとして2014年は「金(きん)」に決定したと報告があり、特集論文投稿の依頼があった。

### (6) 第12回アジア分析化学会議

今坂藤太郎実行委員長の代わりに財津慎一実行委員より第12回アジア分析化学会議(8月22日(木)～24日(土)・九州大学馬出キャンパス医学部百年講堂)の準備状況報告があった。ポスターの掲示枚数と会場の関係に関して会場に精通している浜瀬常任幹事よりいくつかアドバイスがあった。

### (7) 第50回化学関連支部合同九州大会

石岡庶務幹事より第50回化学関連支部合同九州大会(7月6日(土)・北九州国際会議場、AIMビル)のプログラムの現状について、現状54件の発表予定であり、まだ若干増える可能性がある旨報告があった。ついで、九州分析化学ポスター賞の審査対象が現在47名であり、審査員を8名に、受賞者を4名とする予定との報告があった。

## (8) 機器分析ワークショップ

川上常任幹事((株)ジェイ・サイエンス西日本)より機器分析ワークショップ(5月23日(木)・大分大学工学部、5月24日(金)九州工業大学)の開催報告があった。

## 2 議案

### (1) 支部役員の変更

[幹事]土田 博氏(エスアイアイ・ナノテクノロジー(株))から長澤 満明氏(株式会社 日立ハイテクサイエンス)(社名変更、担当者変更による)、田中一平氏(チツソ(株)水俣本部)から椛島 正美氏(JNC(株)水俣研究所)(社名変更、担当者変更による)、平尾 良光先生(別府大学)のご退任、以上(3名)が承認された。また参与の箴島 豊 先生のご逝去の報告があった。

### (2) 九州分析化学会賞及び奨励賞

新留康郎選考委員長より選考委員会(6月1日(土)・九大筑紫地区先導研中央棟1階102会議室)に関する報告の後、選考過程について報告があり、九州分析化学会賞に甲斐雅亮氏(長崎大院医歯薬)を、九州分析化学奨励賞に伊藤華苗氏(福岡大院理)、川本 大祐氏(九大院理)、サレンチチグ氏(九大院理)、富田 健太郎氏(九大院総理工)、二村 朱香(熊本大院自然科学)を推薦する旨報告があった。九州分析化学会賞と九州分析化学奨励賞の1名を除く4名に関して、まずは承認があった。九州分析化学奨励賞の1名に関しては、年齢が規定に合致するかどうかについて議論が行われ、本来の賞の趣旨や本人の能力、また規定にある「原則として」という言葉の意味を総合的に勘案した結果、選考委員の原案通りの受賞が承認された。

### (3) 支部幹事会・講演会・見学会

田嶋晴彦副支部長より準備状況(11月上旬・化学物質評価研究機構久留米事業所)が報告され、承認された。

### (4) その他

#### ・共催・協賛事業

原田支部長より第51回フローインジェクション分析講演会(2013年11月8日(金)、熊本大学黒髪南キャンパス、実行委員長:戸田 敬先生)、The 19<sup>th</sup> International Conference on Flow Injection Analysis Including Related Techniques (ICFIA 2014)(第19回フローインジェクション分析に関する国際会議、2014年12月1日(月)~5日(金)、アクロス福岡、実行委員長:今任 稔彦先生)および、第33回溶液化学国際会議プレシンポジウム(2013年7月6日(土)・福岡大学、組織委員長:山口敏男先生)の3件共催依頼がある旨報告があった。以上の3件に関して日本分析化学会九州支部の共催とすること、共催

金の支出については支部長が前例にならって行うことが承認された  
・浜瀬常任幹事より、支部合同九州大会の高校生にポスター賞の資格がある  
か否かについて質問があり、ポスター賞の対象とすることや、夏季セミナーへ招待  
することに問題ない旨了解が得られた。

以上